

# 国語

## 出題の傾向

大問が3問です。【一】は物語(小説)から、【二】は自然科学や随想などからの総合読解問題、【三】は慣用句など言葉についての問題を出題しています。物語は基本的に「感動」をともなった「愛情」「友情」などを主題としたものから出題しています。

### 2019 今年度の出題と解説

全体として【一】・【二】では、「漢字の書き取り」「語句の意味」「文法」「穴うめ」などの問題の他、「登場人物の心情」「主題」を問う設問を必ず出題しています。また、記述の形で説明を求める問題もいくつか出題しています。【三】は、例年「言葉の知識」を出題しています。漢字のなりたちや意味・慣用句・ことわざ・四字熟語などが中心です。本年度は、1次一般学力型入試で「慣用句」を出題しました。

それぞれの試験で、全体で約20問程度。レベルは1次Aより2次を少し難しくしています。全体的に見て、ふだんから文章を読むことに慣れていないのではないかとと思われる答案が多くありました。大まかにどのような話なのかさえも、つかみきれいていないのではないかとと思われる答案もありました。説明を必要とする設問で、ポイントを外してしまっていることでわかります。ふだんからいろいろな文章になれ親しんでください。小説や新聞など少しでもいいので、毎日文章に接することが大切です。その際、重要と思われる所に線を引きながら読み進めてみてください。試験でも同じことです。本校の入試問題の【一】は、例年かなり長めの文章です。ポイントを探しながら読み進める方法をマスターしておかないと、試験中に2回、3回と読み返している時間はないと思います。長文全体をできるだけ速く正確に読むことが前提ですが、重要なところに線を引きながら読み進めることをマスターしておけば、正解を探すのに苦労はしないはずですよ。

説明をするときの文のしめくくりの言葉も、決まっています。ことがらについて説明するときには「～こと。」の形、理由を説明するときには「～から。」の形でしめくくりします。それらの言葉でしめくくらないと、「説明」をしたことにはなりません。これは基本的な知識です。その基本のできていない答案が目立ちました。注意してください。

また、漢字を正確に覚えていないと思われる答案も目立ちました。音だけが合っている当て字の解答が多く見られたのには驚かされました。ふだんノートを取ったり、文章を書いたりするときに、当て字を平気で使う生活をしていませんか。必ず漢字は意味もいっしょに覚えてください。漢字一つ一つには、それぞれ固有の意味があります。そしてそれらを組み合わせて一つの意味を表すのが熟語です。意味もいっしょに覚えないと漢字を覚えたことにはなりません。また、形の悪い漢字も目立ちました。筆順をまちがっているのでしょうか。漢字は筆順も大切です。特に筆順は書き取り問題では問うことはできませんが、筆順がちがうと、漢字の形が整いません。部首や画

数も意識して漢字を覚えていますか。部首も漢字の形に関係してきます。バランスが悪いと、別の部首の漢字に見えてしまいます。画数も意識をしながら漢字は覚えてほしいと思います。1画で書くべきところを2画で書いたり、また、その逆もありました。最初に教科書に出てきたときに、正確に漢字を覚えてください。最初が肝心です。最初にまちがえて覚えると、今後中学・高校と進んでいく中で苦労が増え、国語力が身につけにくいことになります。悪いくせは今のうちに直しておきましょう。

また、語句の意味を正確に覚えていないと思われる答案もかなりあります。ふだんからいろいろな文章を読んで、どうしてもわからない語句が出てきたら、めんどろがらずに辞書を引いてください。そのひと手間が、君たちの語句の知識を豊富にしていき、読解力の基本をつかっていくのですから。

非常に残念だったのは、設問の指示にしたがっていない答案が多かったことです。記号で答える設問なのに、言葉や漢字をそのまま書いてしまっていたり、指定した字数に足りていない答案を書いていたりと、指定した字数の指定がある場合は、少なくとも8割をこえないと、まったく得点にはなりません。まずは設問をしっかり読んで確認をしてください。入試では、答えの内容が合っても指示に従っていない答案は、残念ながら得点にはなりません。せっかく答えがわかっているのに、指示に従わなかったばかりに得点にならないのはもったいない気がします。「文中のことばを使って」と「文中からぬき出して」のちがいが、しっかりと意識しておいてください。「～ぬき出して」とあれば、君たちが文章に手を加えてはダメです。書いてあるとおりに書き写すのが「～ぬき出して」であり、「～使って」とあれば、文中の語句をぬき出したものを、指示に合うように自分で工夫をするのです。これができていなくて、得点に結びつかなかった答案がかなりありました。

文法の設問は必ず出題しています。言葉のきまりも文章を読んでいくうえでの、大切な手がかりになります。毎年同じような設問を出していますので、過去問をきちんと勉強して、傾向をつかむことが大切です。

以上のことがらのすべてに共通して言えることは、「ふだんから言葉に出会ったときに、どのような意識でその言葉に接しているか」ということが一番大切なことです。言葉を意識し、言葉に敏感になって、普段の生活を送ってください。

それでは、具体的に入試問題を見ていくことにします。

## 【一】

- 問1 漢字の書き取りの問題です。全体で6割ほどできていました。〈あ〉〈い〉ともによくできていました。〈う〉の「奮」を正しく書けていない人が多くいました。
- 問2 それぞれ[ ]の前後の言葉を手がかりにすることで、答えがわかります。擬態語や擬声語に関しては、普段から読書活動などを通して、言葉のイメージをつかめるようにしておきましょう。
- 問3 語句の意味を問う問題です。傍線部a・bの前後の言葉をヒントに答えを探しましょう。a「釘を刺された」について、「イ」の誤答が目立ちました5割ほどのできでした。
- 問4 私がうみかのことをどのように思っていたのがポイントになります。傍線部の直前にうみかが「食い下がったのがさらに生意気に思えた」という表現に注目しましょう。
- 問5 [X]の直前にある母の会話文から、うみかが聞かれないことを母から尋ねられるいることがわかります。全体で8割程度できていました。
- 問6 傍線部②の前後の内容から、うみかの意外な行動や様子がうかがえます。本文のその後には、私がうみかをどのように思ったのかが表されています。そこに注目しましょう。
- 問7 私の気持ちを問う問題です。傍線部③の直後の三行を読めば、[1]・[2]に入る言葉が見つかります。二つともによくできていました。
- 問8 言葉の働きを問う問題です。「らしい」がひとつの言葉の一部として用いられているかどうかを考えてみることも、違いを見つけるポイントになります。
- 問9 うみかが私に「エンデバー」の意味を質問した後で、うみか自身が一生懸命に逆上がりの練習に取り組み、努力していたことがうかがえます。そのうみかの様子から答えを見つけましょう。
- 問10 傍線部⑥の直前の内容から、うみかが私の真似をしてみることで「あと少しできれいな円を描けそう」になった自分に驚いている様子が伝わってきます。そのことから考えましょう。
- 問11 私の気持ちの変化を問う問題です。はじめのころと後ではうみかに対して、どう変化したのかをしっかりと読みとりましょう。

## 【二】

- 問1 傍線部①の後の「森を歩く」ことが現在の日本ではどのように変わってきているのかについて表された箇所を読めば、答えが分かります。全体で7割程度のできでした。
- 問2 つなぎ言葉の問題では、空らんの前後の内容に注目すると、入る言葉が見つかります。全体としては、5割程度のできでした。
- 問3 漢字の書き取りの問題です。「い」の「争」が「走」となっていた人が多くいました。また、「う」の「判」を正しく書けていない人もいました。
- 問4 [エ]直前の「結論を急がずに、時間をかけて見極めることが必要な場合もある」という表現などに注目することで、どこに入れればいいか分かります。本文を読めていない人で[イ]や[ウ]といった誤答が目につきました。
- 問5 傍線部②の直後にある具体的な表現にこだわるのではなく、その先にある「理想的なのは……森をつくるということ」に着目することが大切です。全体で6割程度できていました。
- 問6 漢字の成り立ちを問う問題です。二つの漢字がどういう関係にあるのかを考えることで答えが分かります。考え方が分からなかったのか、3割程度のできでした。
- 問7 [Y]の直前のどれを残すか「じっくり時間をかけて考える」理由を選択肢から選ぶ問題です。なぜ、時間をかけて考える必要があるのかは、[Y]の直後の内容を読めば分かります。全体で6割程度できていました。
- 問8 本文の内容を読み取れているかどうかを問う問題です。本文の終わりに、人間も木と同じで、いろんな芽を持っているとあります。人生についても結論を急がず、時間をかける必要性を述べていることから、正解を見つけましょう。

## 【三】

慣用句やことわざを問う問題です。知っている人と知らない人の差が大きく出たようです。日ごろから慣用句やことわざ・四字熟語などについては、しっかり学習しておきましょう。

## 対策と アドバイス

とにかく、過去問をできるだけ多く解いて、上宮の入試問題に慣れておくということです。そして語句の意味や漢字・慣用句といったものは、平日頃から意識して身につけていかないと、なかなかテストで答えられるようにはなりません。できるだけ早い時期に上宮受験を決めて、対策を始めてください。